

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 平野区
学 校 名 大阪市立長吉小学校
学校長名 岸本 昌悟

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉小学校では、第6学年104名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校ではここ数年、大阪市や全国の平均値に近づけてはいるものの、それより下回る結果となっていた。昨年度は国語・算数ともに大阪市の平均と同じ値となり、全国との差もわずかになっていた。

しかし、今年度の調査結果の平均正答率は、国語科は47.0、算数科は47.0、理科は43.0となり、大阪市や全国の平均値から大きく下回った。

また、平均無回答率においても、国語、算数、理科ともに3～5ポイント高くなっている。正答数分布グラフにおいて、どの教科も中央値を谷として、ピークが二つあることも本校の特徴といえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] すべての領域において、大阪市や全国より10ポイント以上低く、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国と比較して20ポイント下回っていた。

[算数] すべての領域において、大阪市や全国より10ポイント以上低く、特に「図形」において、全国と比較して19.3ポイント下回っていた。

[理科] すべての領域において、大阪市や全国より10ポイント以上低く、特に「A区分・粒子を柱とする領域」において、25ポイント下回った。

3教科共に、短答式・記述式における無回答率が大阪市や全国と比較しても非常に高くなっている。自信をもって自分の考えを文章にまとめるなどを苦手と感じている児童や、粘り強く取り組めずに諦めてしまっている児童が多くいることが分かる。

質問紙調査より

「将来の夢や目標を持っていますか」の問い合わせに対し、「当てはまる」と回答した児童は66.7%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問い合わせに対し、「当てはまる」と回答した児童は49.3%、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問い合わせに対し、「当てはまる」と回答した児童は85.3%と、大阪市と全国の割合よりも上回っていた。夢や目標を持って、友だちと仲良く協力しあうことを大切にしている児童が多いことが分かる。

「自分には良いところがあると思いますか」の問い合わせに対し、「当てはまる」と回答した児童は17.3%、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問い合わせに対し「当てはまる」と回答した児童は33.3%と大阪市と全国と比べると、かなり低くなっている。児童が「自分が好き」「友だちが好き」「学校が好き」と言えるような学校づくりに取り組むことが重要である。

今後の取組(アクションプラン)

昨年度から「生活科・総合的な学習」を研究教科として、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法について研究を進めている。自分たちの地域「長吉」に目を向けて、「学校がもっと樂しくなる」「長吉の町がもっと住みやすくなる」ために、自分たちにできることを考え伝え合うことを通して、地域の一員であることの自覚を養い行動にうつせる児童を育てたい。さらに地域の方々との関わりを通して「あの人になりたい」「あんな仕事に就きたい」などと将来への夢や希望をもたせたい。

また、生活科・総合的な学習の時間で培った力を他の教科と関連付けながら教科横断的に取組み、系統立てたカリキュラムマネジメントを進めていく。

さらに、国語科では「言葉の特徴や使い方について」、算数科では「計算」「図形」に重点を置き基礎基本を身に着け、学習に対して自信をもって取組めるようにしたい。

そして、「遅れないで学校に来る」「忘れ物をしない」などの生活規律や学習規律の確立に向けて、保護者と協力しながら、学校生活がより豊かになるよう取組んでいく。

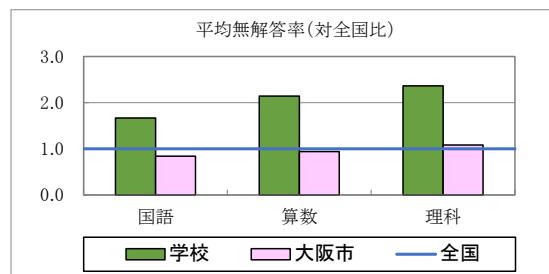
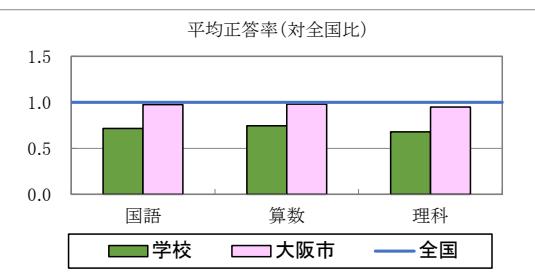
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	47.0	47.0	43.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	9.5	7.5	8.5
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

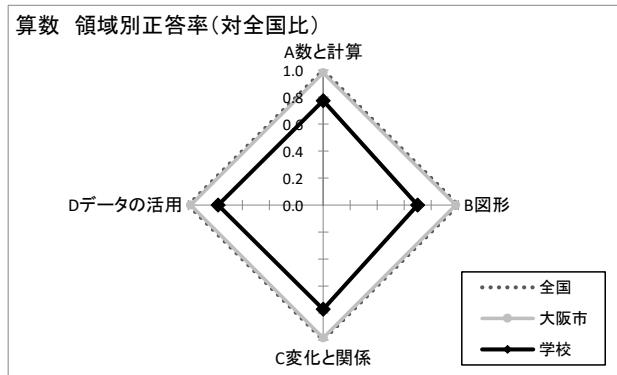
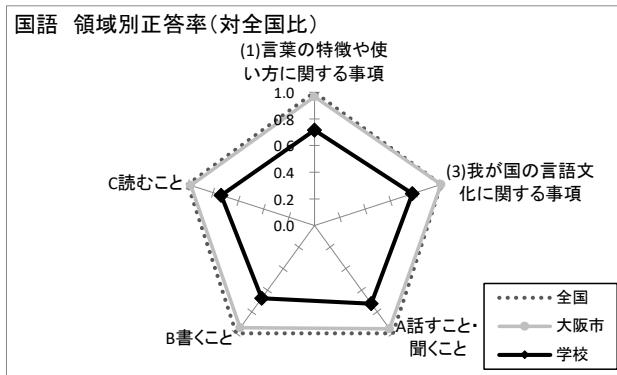
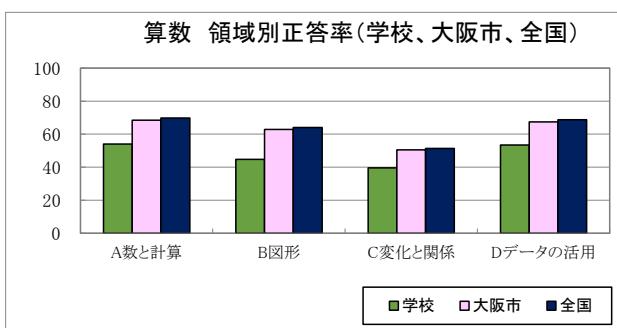
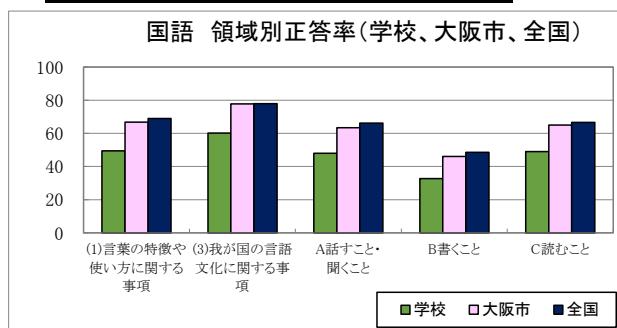


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	49.4	66.7	69.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	60.2	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	48.0	63.4	66.2
B 書くこと	2	32.7	46.0	48.5
C 読むこと	4	49.0	65.0	66.6

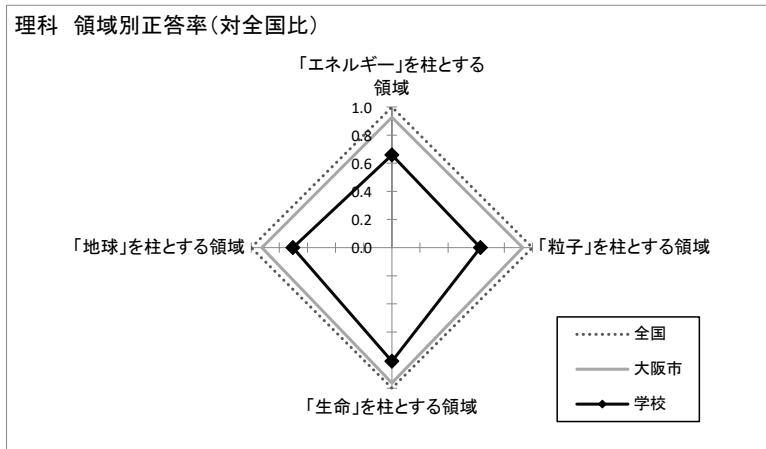
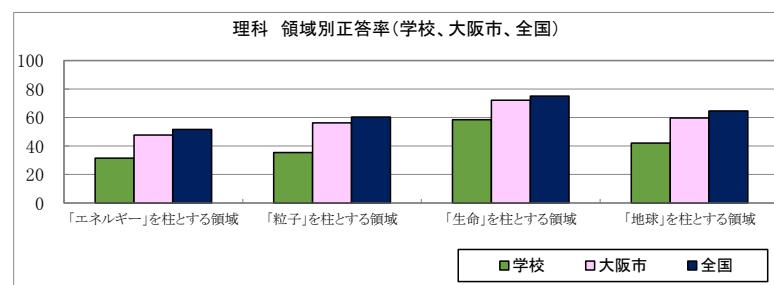
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	54.0	68.4	69.8
B 図形	4	44.7	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	39.6	50.5	51.3
D データの活用	3	53.5	67.5	68.7



【 理科 】

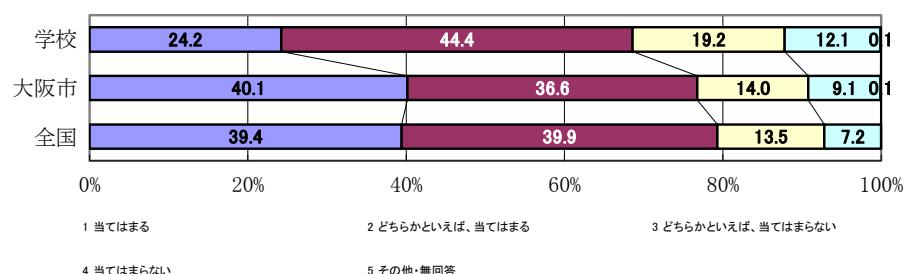
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	31.5	47.8	51.6
	5	35.4	56.2	60.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	5	58.4	72.2	75.0
	5	42.0	59.7	64.6



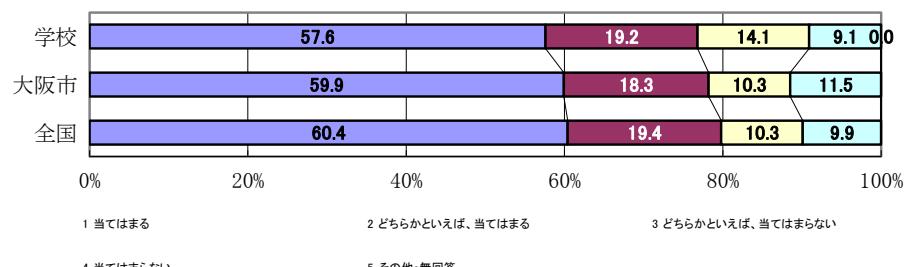
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

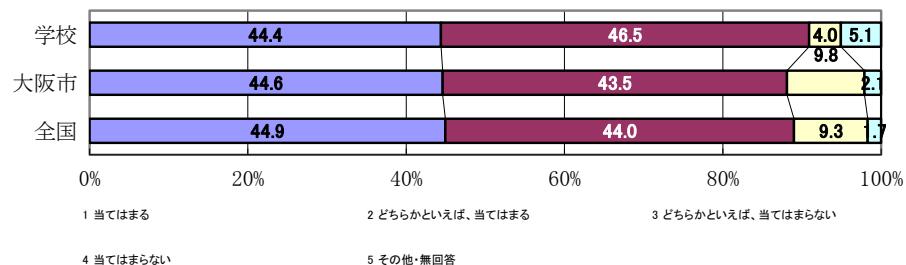
質問番号
質問事項
7
自分には、よいところがあると思いますか



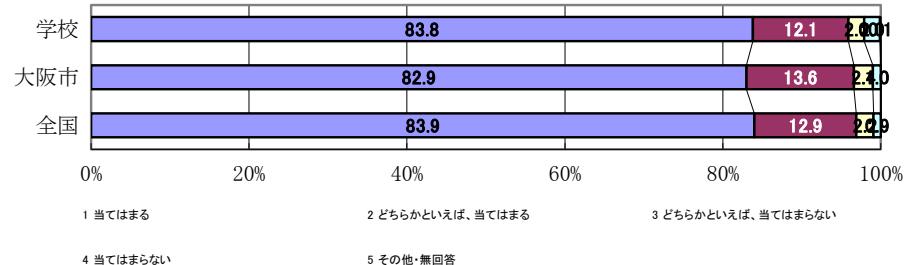
9
将来の夢や目標を持っていますか



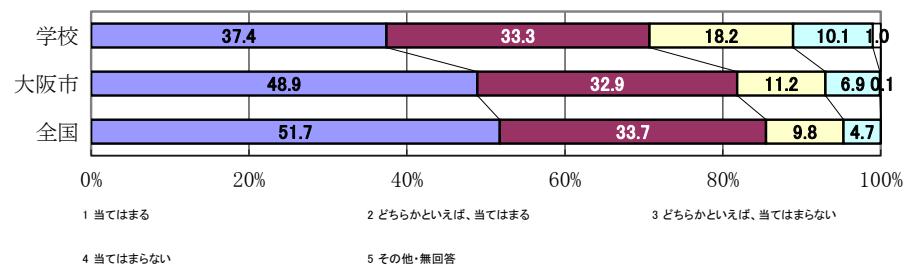
12
人が困っているときは、進んで助けていますか



13
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



16
学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

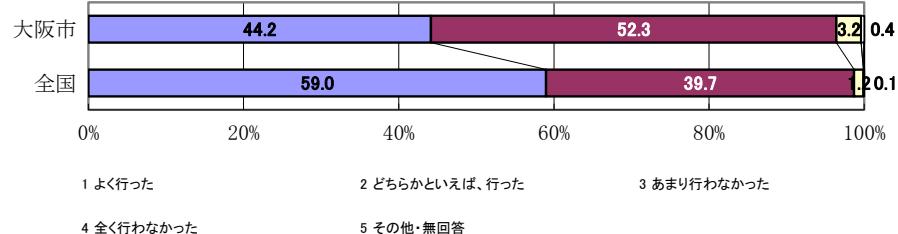
質問番号

質問事項

10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

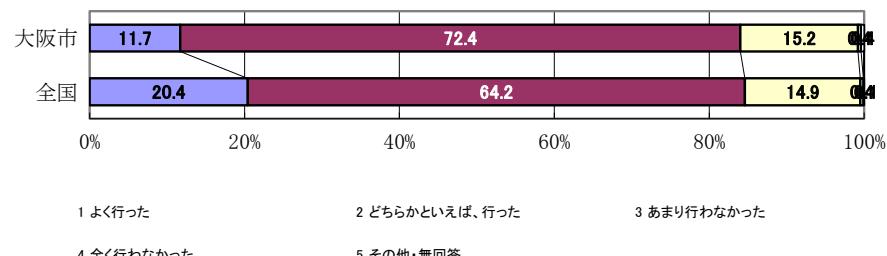
学校 「よく行った」を選択



8

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

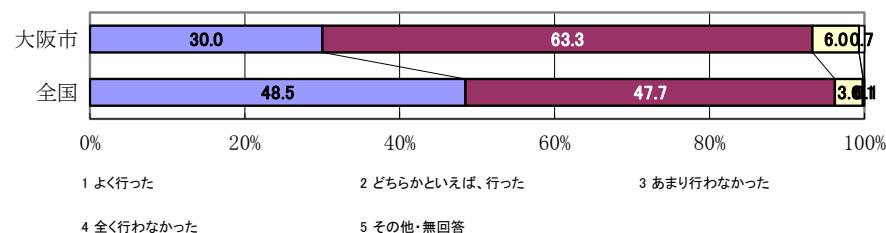
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

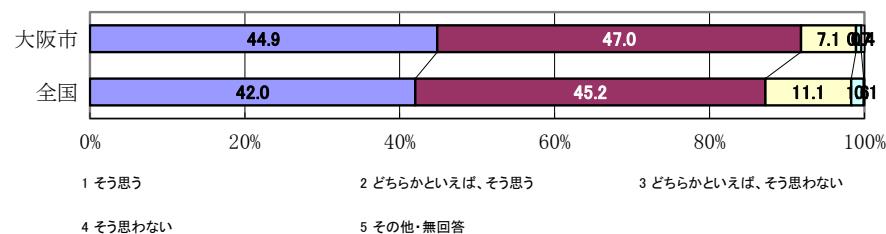
学校 「よく行った」を選択



7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか

学校 「よくしている」を選択

